指導計画案

展開	指導上の重点目標	学習活動	指導上の留意点
導入	1 短歌を身近に感じ、読み取る態度を身に付けさせる。	❶ 国語便覧を使用して正岡子規・与謝野晶子・若山牧水・石川啄木・斎藤茂吉について文学史上の位置と役割を確認する。知技 ❷ 短歌一首の板書、朗読と分析・読解・修辞法・鑑賞などの例を見て発表方法を理解する。知技	❶ 国語便覧の要所を生徒に当てて音読させる。文学史の中で近代短歌について意識を喚起させる。 ❷ 子規の「くれなゐの」のように読み慣れない旧仮名遣いの歌を板書し、音読方法確認し、同時に句切れや語句の調べ方を指示する。
展開	1 朗読することによって短歌を味わう方法を考えさせる。 2 近代歌人の作風の特長を理解し、主題をつかませる。 3 短歌の背景となる時代や、各歌人の人生認識を把握させる。 4 戦中戦後の短歌や前衛短歌・現代短歌を理解し、主題をつかませる。	❶ 二人一組（または班）で、子規・晶子・牧水・啄木・茂吉の五歌人の短歌について、朗読・分析し、読解と鑑賞を発表する。主態 ❷ 「明星」と「アララギ」の歌風の違いを挙げて確認する。知技	❶ 子規の歌について、同音の連続・感動の中心を確認させる。 ❷ 晶子の歌について「桜月夜」「やは肌のあつき血潮」など、表現の効果を理解させる。 ❸ 牧水の歌について、「白鳥は哀しからずや」や「寂しさの終てなむ国」に込められた思いを理解させる。また、「白鳥」の色彩感覚について気づかせる。 ❹ 啄木の歌について、三行表記・句切れ・擬音語・字余りの効果を確認させる。 ❺ 茂吉の歌について、玄鳥の効果や「ふたつ」と表現している理由を鑑賞させる。また、「〜けるかも」という表現について理解させる。茂吉の「玄鳥」と牧水の「白鳥」の色彩とその効果の違いを比較させてもよい。 ❻ プリントを作って、「アララギ」派、「明星」派などの流派について理解させる。

		まとめと発展
❼ 春日井健については、別資料や解説が必要になる場合がある。後出の〔参考〕に三島由紀夫が健を評した文章を掲載した。 ❽ 史の歌について、色彩感覚や触覚・温度感覚などを確認する。そこから表現される心情を理解する。 ❾ 修司の歌について、句切れ・戦中戦後での祖国意識を理解する。 ❿ 建の歌について、句跨がり・倒置法・対句的な表現を理解させる。 ⓫ 万智の歌について、会話表現を使用することには、どのような効果があるか考えさせる。 ⓬ 戦後の自由な文芸活動と現代短歌、その中に前衛短歌があることについて考えさせる。修司の俳句・映画などをモチーフとする姿勢と、建の物語性を取り入れた姿勢を理解させる。また、万智の日常的中での発見と表現方法についても考えさせる。	❸ 国語便覧を使用して斎藤史・寺山修司・春日井健・俵万智について文学史上の位置と役割を確認した上で、二人一組（または班）で歌を鑑賞する。思判表	1 和歌・短歌を言語文化の流れとして理解させる。 2 和歌・短歌で使用されている様々な技法について確認させる。
❶「学習のポイント」（二七二ページ・上段）の2について確認する。 ❷「学習のポイント」3 4を実施し、本歌取りや、その伝統について理解させる。 ❸「学習のポイント」5 6を実施し、係り結びや助詞によって作者の心情が強調されていることを確認させる。 ❹「言葉と表現」（二七二ページ・下段）1 2を実施し、歌のイメージを広げさせる。	❶ 歌の呼応について理解する。知技 ❷ 本歌取りの効果について理解する。知技 ❸ 和歌・短歌における強調の表現についてまとめる。知技 ❹ 和歌・短歌に使われている枕詞を理解し、歌のイメージを広げる。思判表	